

命の灯

演奏 ヒカリハコ
作詞 遠藤 仁平
作曲 遠藤 仁平 / 本田 祐也
編曲 COCK ROACH / 山田将司

命の灯は
僕等が思うよりもずっと
小さくて弱いもの
風が吹けば
すぐに消えてしまう

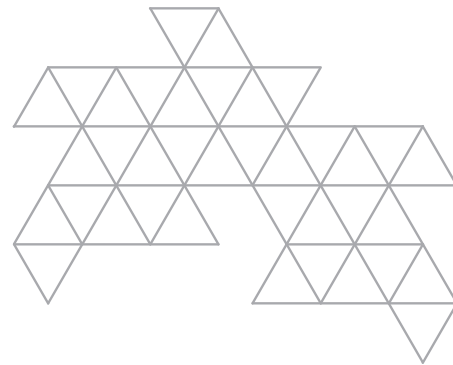
命の船を漕ぐ事
それは大海の上暗闇の中
死という最期の終着地が
何処にあるのか何時着くのか知らされぬまま
唯一人、たった一人オールを漕いでゆく
人生の終着地が見える間に
神はその旅の意味を
耳元で囁いてくれるだろうか？

命の火を灯す事
風が穏やかな時は装飾された
偽りの明るさに目が眩み
徐々に膨らむ炎に終わりは無いと錯覚する
突風が吹き灯火が向かい風の
最前に立たされた時
己の命の炎のか弱さに
初めて人々は死と対話する

いつからか僕は
隣にそっと死を座らせて
たまにゆっくり横を向けば
いつも死神が笑っていた

命の灯は
僕等が思うよりもずっと
小さくて弱いもの
風が吹けば
すぐに消えてしまう

一度火が消えたら
もう二度と火は灯らないの？
一度火が消えたら
もう誰にも火は灯せないの。



命の灯は
僕等がお互いの灯を
揺らいでしまわぬ様に
目を離した一瞬で
消えてしまわぬ様に

両手で包み込んで
悪しき風からあなたの灯を
守る事ができるなら
この痛みも温もりも
握りしめて

生きよう。

「あの日」僕は生まれた
これから見るであろう景色の全てを
闇の中、走馬灯に見せられた

悲しい事が多くて泣いた
悲しい事ばかりで泣いた
泣き疲れて初めて眼を開けると
涙の向こう側に母は笑っていた

「それでも生きなさい。」

母は言った

「今、あなたが生まれあなただけが泣いている。
まわりの皆は祝福の笑顔であなたを見ている。
あなたがこの世を去る日、まわりの皆が惜別の涙に打ちひしがれても
あなただけは笑顔で皆を見ている。
そんな最期を迎えられる様な人生を送りなさい。」

「あの日」僕は生まれた。

夕暮れ
没落する太陽に向かって
金色の鸞が羽ばたき
光の道を描く
その天道に誘われ
天に昇り死者
天から降り胎児
すれ違う
ビルの隙間交差点で立ち止まり
スローモーション降り注ぐ金色の羽を見ている
「あの日」流した涙に似た涙が
ゆっくり一点頬を伝う感触
か細くてあたたかい
たった一滴の光輝く滴

ああ。これが命か。

